

## 債務上限引き上げ問題 2 妥協が成立、デフォルト回避の可能性高まる

債務上限引き上げの期限の 8 月 2 日まで残り 1 日と 5 時間弱に迫ったが、オバマ政権・民主党と共和党の債務上限引き上げと財政赤字削減の妥協案がまとまり、デフォルトを回避できる可能性が高まってきたと考えられる。以下、本日 31 日の交渉の進展具合と今後の可能性を考えてみた。

### 1. ホワイトハウスと共和党指導部が合意、民主党指導部も同調へ

昨日 7 月 30 日午後までは議会では妥協への前進が全くみられず、デフォルトはあり得ないと確信してきた世論や金融市場にも本当に期限までに妥協が成立するのかという不安が広がっていた。しかし、その後に共和党指導部からホワイトハウスとの交渉が進んでいるとの発言が漏れ始め、本日 31 日未明からは両者の協議に実体のある進展があったとの報道が続出した。30 日午後 10 時過ぎからのバイデン副大統領と共和党のマコネル上院院内総務の協議に重大な進展があったとの報道もある。今朝からは、前進と妥協の具体的内容を語る両党の交渉当事者が増えている。

本日午後には上院で民主党のリード院内総務が策定した民主党案が、審議打ち切りに必要な 60 票を集められず採決を阻止された。だが、これは大方の予想通りであり、ホワイトハウスと共和党の合意に民主党が加わるプロセスの一つだったとみられる。現に、阻止後に上院では民主党と共和党の協議が進み始め、リード院内総務が上記合意を受け入れたとの声明を発表した。議会民主党がまだ同合意を受け入れたわけではなく、共和党も合意への造反を少数に抑え込める確証はない。だが、合意が不成立ならデフォルトが待っている現状において、両党からの合意への造反者が合意を覆すほどに増える事態は考えにくい。債務上限引き上げの期限の 8 月 2 日まで残り 1 日と数時間になって、ようやくオバマ政権・民主党と共和党の妥協がまとまりつつあり、デフォルト回避の可能性が高まってきたと考えてよいだろう。

### 2. 合意内容：最大 3 兆ドルの赤字削減と債務上限引き上げ、二段階で実施へ

ホワイトハウスと共和党の合意の枠組みは次のようにまとめられる。ただし、財政赤字削減・引き上げのそれぞれの金額や削減の具体的方法については、報道によって多少の幅がある。

- i) 今後 10 年間の財政赤字削減額（＝歳出削減額）は 2.5~3 兆ドル。この金額と同等かそれ以下を債務上限の引き下げ総額とする。赤字削減と債務上限引き上げはセットで二段階に分ける。
- ii) 赤字削減のうち 1.2 兆ドルは即時に内容を決定。残額（総額 3 兆ドルなら 1.8 兆ドル、同 2.5 兆ドルなら 1.3 兆ドル）の削減方法は議会に設置する超党派の委員会が決定して、議会が承認する。超党派委員会は歳出削減策だけでなく、社会保障給付プログラムの改革にも取り組む。同委員会の削減案の策定と議会の同案承認の事実上の期限は、第一段階で引き上げられた債務上限に債務残高が届くであろう今年 11 年末。
- iii) 残額の赤字削減案を議会が可決できなければ、強制的に防衛費とメディケアの支出削減を開始するというトリガー条項を設ける。これにより、i) の実行が担保される。
- iv) オバマ大統領に二段階等の条件付きで債務上限の引き上げ権限を与える。第一段階は 1 兆ドル、即時（引き上げ額は即時の財政赤字削減額以下）。この引き上げにより 11 年末までの財務省の必要調達額を満たすことができる。第二段階の引き上げの時期と金額は超党派委員会の赤字削減案の金額とその策定・議会承認の時期に見合う。
- v) 議会にオバマ大統領の債務上限引き上げに対する不承認決議の採択を認める。一方でオバマ大

統領には同決議への拒否権がある。現在の議会では共和党に拒否権を覆す議席数がないため、同決議には債務上限引き上げの責任を議会から大統領にシフトする程度の意味にとどまる。

- vi) 議会による「財政均衡条項を設ける憲法改正 (Balanced-Budget Amendment)」の採決を大統領の第二段階の債務上限引き上げの条件とする。29 日に下院で可決された共和党案では、同条件が「可決」となっていたが、「採決」に変更する。

### 3. 「合意内容」の評価：双方のぎりぎりの譲歩の組み合わせ、妥協成立でデフォルト回避へ

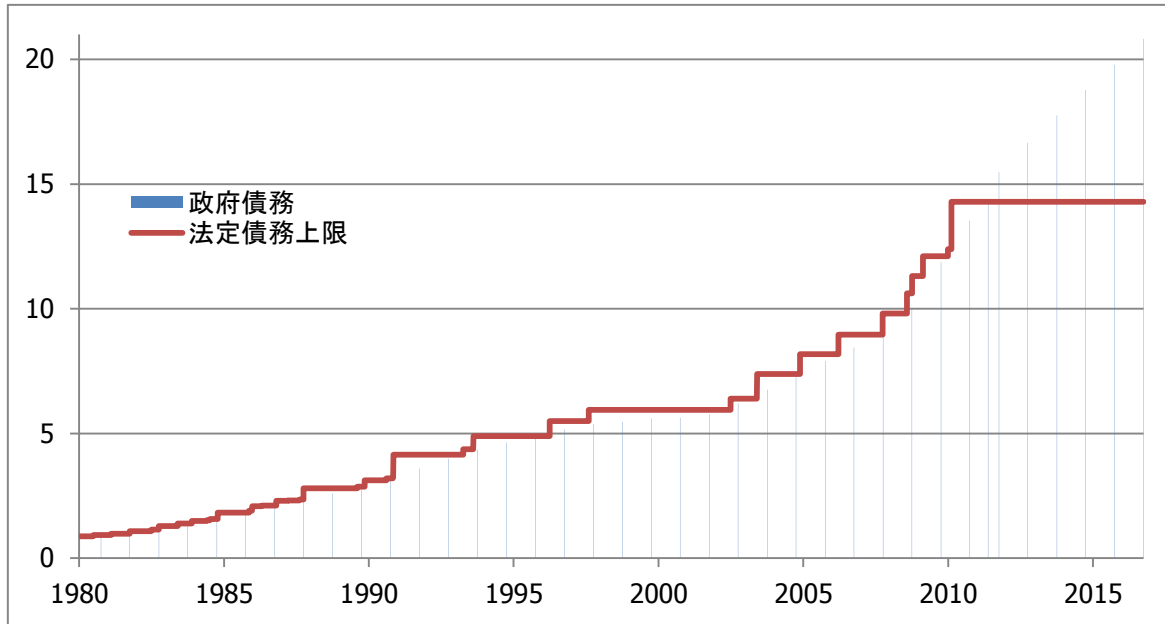
上記内容から分かることは、これまでの交渉当事者の提案の枠組みを組み合わせていることである。そして協議の過程で、枠組みに与える条件でオバマ政権・民主党と共和党の利害調整がなされた。債務上限引き上げでは共和党が譲歩して、事実上 12 年末まで再び議会で審議されることがない金額と条件とするという点でオバマ政権と民主党に有利とする一方、財政赤字削減ではオバマ政権と民主党が譲歩して、歳入増加はなし、相当の削減額を認める、メディケア・メディケイドなどの社会保障給付プログラムの改革に着手することにした。オバマ政権・民主党も共和党も、それぞれ党内・支持者に相手から譲歩を勝ち取ったとアピールできる妥協案であり、造反を最小限に抑えられる案をまとめることに成功したといえる。

この合意内容に対して、ベイナード下院議長は歳出削減における防衛費の削減幅を縮小しようと抵抗を続け、民主党はその点で政権が譲歩することを認めないという対立が残っているとの報道もある。ティーパーティーに支持される共和党議員は、上記内容の vi) の「可決」が「採決」にハードルが引き下げられたことに強く反発しているともいう。逆に民主党内には、オバマ政権が共和党に譲歩し過ぎたとして反発する声が少なくなく、これからの上下両院の民主党の合意内容への承認取り付けが難航するのではないかとの見方もある。

だが、上限引き上げの期限まで残りは 1 日と 4 時間余り。この合意が崩壊すれば、新たな合意案をまとめる時間は残されていない。合意を拒否すればデフォルトが待っているという瀬戸際の決断を迫られる民主党と共和党の各議員にとって、合意に反対することは極めて勇気がいることである。それでも「デフォルトなどあり得ない、政府には資金がある」「デフォルトになっても大したことはない」と主張している一部の下院議員はおそらく合意に反対するだろう。ただ、29 日の下院の共和党案の採決で造反した議員が 22 人にとどまったことをみると、デフォルト否定派、財政赤字削減至上主義派といえる議員の数が意外に多くないとみられる。依然として予断を許さない現状ではあるが、ホワイトハウスと共和党の合意は上下両院で可決される法案になり、デフォルトが回避される可能性は議会の交渉に全く前進がなかった先週末よりは大きく高まった、つまりデフォルトの可能性は極めて低いと筆者は判断する。ただ、デフォルトが回避されても、財政赤字削減の金額からみて、米国債の格下げのリスクは高いままであろう。

なお、合意内容をめぐっては、交渉当事者の利害調整から、上記内容から大幅な変更が生じる可能性はあるなど、情勢に流動的・不透明な面は残っている。デフォルト・リスクも皆無になったわけではない。今後、大きな変化が生じる場合やその可能性が高い場合には、迅速に追加情報を報告していきたい。

図 連邦政府債務残高と法定債務上限の推移（兆ドル）



（資料）OMB（行政管理予算局）（注）2011 年以降の政府債務は見通し

以上／今村

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料の提供する情報の利用に関しては、すべて利用者の責任においてご判断ください。当資料に掲載されている情報は、現時点の丸紅米国会社ワシントン事務所長の見解に基づき作成されたものです。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当事務所は情報の正確性あるいは完全性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は、出所をご明記ください。